

MITSU  
K O

No.  
1  
平居 宏朗 (ひらい  
ひろあき)  
6  
9  
枚

## 登場人物

- ・ 青山光子
- ・ ハインリヒ・クーデンホーフ
- ・ クーデンホーフ家の七人の子供
- ・ フリードリヒ・クーデンホーフ (伯爵弟)
- ・ 伯爵弟夫人
- ・ 青山喜八 (光子の父)
- ・ 青山つね (光子の母)
- ・ 光子の乳母
- ・ 皇帝使者
- ・ グーテンホーフ家の親族たち
- ・ ウイーンの街の人々
- ・ 東京の庶民と子供
- ・ 神主や巫女
- ・ 天照大御神 (アマテラスオホミカミ)
- ・ 木花開耶姫 (コノハナサクヤヒメ)
- ・ 聖母マリア
- ・ 日本の女神たち

第一幕 日本との決別

【第一場】「正月・祝い」

登場人物

光子

ハインリヒ

庶民

こども達

神主

巫女

天照大御神

舞台

正月の日本。神社前。大きな鳥居。

賑わう人々、神主・巫女たちの姿。

◆鳥居前では和装・洋装の入り乱れる明治の人々が新年をことほぎ、和歌を皆で詠じている

大道芸人、角兵衛獅子の子供たち、笛吹き、太鼓持ちが境内を練り歩く

子供

新しき 年の初めの 初春の

今日降る雪の いやしけ吉事（よごと）

庶民

新しき 年の初めの 初春の

今日降る雪の いやしけ吉事（よごと）

（参拝にやってきた光子とハインリヒ）

光子

伯爵、あけましておめでとうございま

す。

ハインリヒ

光子、あけましておめでとう。

さすが八百万の神々を祀る国だけのことはある。

見事な祝いだ。

◆境内では巫女たちが巫女舞を舞い始める。  
やがて神社の奥殿の戸が開き、女神の舞が供される。

光子 伯爵、あちらをご覧ください

ハインリヒ おお、なんと美しい

光子、あの女神はなんと云ふのだ？

光子 アマテラスオホミカミ。

我が国では太陽の女神。日のひかりを  
司る神と呼ばれております。

ハインリヒ アマテラスオホミカミ。

太陽の女神。

光子 アマテラスオホミカミ。

光の女神。

光子 「天の岩戸」

その昔、女神が此の世から

お隠れになられし月日（つきひ）より

世界は暗闇に覆われ

昼夜の区別はなくなった

困り果てた神々は集い

歌い、踊り、祈り、

女神を呼び戻す

あまのいわとひらき

女神を呼び戻す

あまのいわとひらき

光を取り戻す

アマテラスオホミカミ

太陽の女神

アマテラスオホミカミ

光の女神

アマテラスオホミカミ

我が名、光子の名のいわれ

ハインリヒ 光子 私の女神

ボヘミアの暗き森より永き旅路の果て  
日の出づる国にて出会いし光の女神よ  
ならば我が身を永遠(とわ)に照らさん  
汝、我を照らせば  
我、汝を永遠(とわ)に守らん  
この八百万の神の前で、今、誓おう

光子 伯爵

伯爵・光子 (二人ヒシト抱擁ス)

ハインリヒ 光子 私の女神 光の女神よ

◆雪がちらつき始め、しだいに二人降りかかる

光子 まあ、初雪

ハインリヒ 初雪？

光子

新しい年の初めに降る雪はこれから  
良きことがたくさん降り積もる  
吉兆とされています

ハインリヒ

吉兆！

光子

でも本当に雪の降るお正月は  
私も生まれて初めて・・・  
なんてめでたく  
そして美しいのかしら

伯爵、日本（にほん）ではめでたい正  
月の祝いにはこんな歌が詠まれてきま  
した

新しき年の初めの初春の  
今日降る雪のいやしけ吉事（よぎ  
と）



ハインリヒ

新しき年の初めの初春の

今日降る雪のいやしけ吉事 (よご

と)

庶民・子供たち

新しき年の初めの初春の

今日降る雪のいやしけ吉事

(よごと)

巫女・宮司一同

新しき年の初めの初春の

今日降る雪のいやしけ吉事

(よごと)

◆静かに雪が降り積もってゆく・・・

【第二場】「光子の祈り」

登場人物

光子

ハインリヒ

神主

巫女

木花開耶姫（コノハナサクヤヒメ）

聖母マリア

日本の女神たち

舞台

神社境内

◆境内では神主や巫女たちが霊峰富士を讃える歌を唱和している。社殿の彼方からは神官らの賛歌とともに陽の光を浴びた富士山の姿が浮かび上がってくる。

神主・巫女

「富士」

天地（あめつち）の分（わか）れし  
時ゆ 神（かむ）さびて 高く貴（た  
ふと）き 駿河（するが）なる

布士（ふじ）の高嶺（たかね）を 天  
（あま）の原 振（ふ）り放（さ）け  
見れば 渡る日の

影（かげ）も隠（かく）らひ 照る月  
の 光も見えず 白雲（しらくも）も  
い行（い）きはばかり 時じくそ 雪  
は降りける 語り継（つ）ぎ 言ひ継  
ぎ行かむ 不尽（ふじ）の高嶺（たか  
ね）は

◆富士の表れと共に神官たちは去り、代わって光子の登場

光子

ああ、この美しき山 富士の姿よ  
わたしは二度と忘れないでしょう  
伯爵の愛を受け入れた私は  
もうすぐこの国を離れ  
見知らぬ異郷へ旅立つのだから  
だれひとり知る人のいない  
遠きボヘミアの地  
伯爵の愛だけが  
たったひとつの灯(ともしび)  
私をはぐくんだこの大地  
日本(にほん)を忘れることはないで  
しょう  
まぶたの裏に焼きつけます  
美しく 勇壮な 富士の山  
だからどうかわたしを  
わたしたちの未来をお守りください

光子

(日本ヲ想フ歌ヲ詠ム)

やまとはくにのまほろば たたなづく

あおかき やまごもれる  
やまとし うるわし

やまとはくにのまほろば たたなづく  
あおかき やまごもれる  
やまとし うるわし

光子

(社殿ニ跪キ、富士ニ頭ヲ垂レル)

◆富士に光が当たり、桜の花びらと共に木花開耶姫（富士山の女神）が現れる

木花開耶姫

光子よ 光の子よ

汝の想い しかと聞いた

我が名はサクヤ コノハノナサクヤ

霊峰富士の女神にして

豊穰の女神なり

汝らの行く末に幸多からんことを

光子

サクヤさま 木の花が咲き匂うが如く  
かぐわしい桜の神よ

遠く異郷の地で桜の花を見るごとに  
貴方の姿を思い出すでしょう

どうか私達に微笑みたまへ

どうか私達に幸ひ（さきわい）たまへ

どうか私達をかむながら守りたまへ

（社殿ニ跪キ、再ビ、祈リ続ケル）

◆日本の女神たちがつきつきと現れ、光子を祝福してゆく

（アマテラス、アメノウズメ、タマヨリヒメ、トヨタマヒ

メ、ククリヒメ、宗像三女神等々。それは一心不乱に祈り続  
ける光子の見た幻影だったのかもしれない・・・）

女神たち

光子よ 光の子よ

汝の思い しかと聞いた

汝らの行く先に幸多からんことを

光子

ほほえみたまへ

女神たち

光子よ 光の子よ

汝の想い しかと聞いた

汝らの行く先に幸多からんことを

光子

さきはひたまへ

女神たち

光子よ 光の子よ

汝の想い しかと聞いた

汝らの行く先に幸多からんことを

光子

かむながらまもりたまへ

◆神々は去るも一人社殿に残り、祈り続ける光子。光子の背後よりヴェールをかぶり、洋装の女神が現れる。

聖母マリア

光子よ 光の子よ

汝の想い しかと聞いた

汝らの行く先に幸多からんことを

汝の子らにも幸多からんことを

◆ 一心不乱に祈りつづける光子にそっとロザリオをかけ、去  
ってゆく・・・(受胎告知)



【第三場】「父の怒り」

登場人物

光子

父

母

乳母

舞台

自宅前  
(神社前でも可)

父

光子 光子 光子

お前はなんてことをしてくれた！

異人との結婚

ワシは絶対に認めぬぞ

光子 光子 光子

親の許しも得ぬまま

夫婦の契りを交（か）わすとは

先祖にあわせる顔がない

光子

お父様

家の名に泥を塗った事はお詫びします

お父様

しかし、自分の心に

泥は塗っておりません

伯爵との愛に心は輝きを増すばかり

## 「愛の光」

愛の光はわたしを照らす

わたしとあなたを

あなたとわたしを

内（うち）からも （そと）からも

心の奥より 深く深く

愛の光はあなたを照らす

わたしとあなたを

あなたとわたしを

中（なか）からも 側（そば）からも

心の奥より 温かく温かく

父  
ならん ならん ならん

ワシは絶対に認めぬぞ

いかん いかん いかん

たとえワシが許しても

先祖が許す筈がない

母

光子 いったいどうしたというの？

お父様に謝りなさい

あなたはきつと騙されてるのよ

はやく目を覚まして

さあ、お父様に謝りなさい

光子

いいえ お母さま

私は騙されてはおりません

私の心の光は

あの方と会って輝きを増すばかり

うちなる声はささやきます

この愛をつらぬけと

母

いいえ 光子

あなたは騙されているのです

さあ はやくお父様にお詫びなさい

ご先祖様にお詫びなさい

父

ならば光子

この刃にて家名の恥を雪（そそ）ぐの  
だ

お前は我が家の名を汚（けが）した

一族の名誉に

傷をつけることはまかりならん

命にかえて汚名を雪ぐ（そそ）のだ

我が家に伝わる家宝の刃

光子 さあこの刃の元に果てるがよい

（短刀ヲ手ニ光子ニ迫ル）

さあ さあ

光子

お父様！

母

貴方！

父

（光子ニ短刀ヲ握ラセ、自刃ヲ迫ル）

さあ！

乳母

(光子ト父ノ間ニワツテ入ル)

旦那様

どうかお嬢様をお許し下さい

光子様ひとりの命では既にはないのです

お嬢様は新たな命を宿しています

二つの命まで

奪うのはあまりにも惨いおこない

光子様を幼き頃より育てし

わたくしのこの命をば 代わりに

さしあげますので

どうか どうか 旦那様

光子様をお許しください

(父ノ着物ニ縫リ付ク)

父

(乳母ヲ蹴飛バシ、激高ス)

なんと なんと なんと

光子 ほんとうか

結婚だけでなく 子供まで

もはやお前はうちの子でもならん

今日(きょう)より親子の縁を切り

今後一切 我が家の敷居を  
またぐことはまかりならん！

(去ってゆく父)

母  
あなた！

(夫ヲ呼ビ止メルモ、光子へ駆ケヨル)

光子！

(家宝ノ小刀ヲ光子へ手渡ス)

「月に雲 花に風」

これは家宝の守り刀(もりがたな)

この刃(やいば)

あなたの未来を切り開き

わざわざ退け払うでしよう

人生は月に叢雲（むらくも）花に風  
思うようにはいきません

今日よりこれからこの刀

ちちははの

代わりと為りてあなたの身  
わざわざ退け守るでしょう

あなたの未来にひかりあれ  
光子の未来にひかりあれ

人生は月に叢雲（むらくも）花に風  
思うようにはいきません

あなたの未来にひかりあれ  
光子の未来にひかりあれ

（小刀ヲ光子ニ託シ、舞台ヨリ去ル）

光子

お母さま



◆光子、独り舞台に取り残された所で暗転

第二幕 ボヘミア・ハインリヒ伯爵の志

【第一場】 「親族の敵意」

登場人物

光子

ハインリヒ

伯爵弟

伯爵弟妻

貴族たち

舞台

ロンスペルク城内大広間

◆ロンスペルク城の大広間にて人々は語らい、踊っている。  
その中心ではパーティーの主役である光子と伯爵が肩をよ  
せ、仲睦まじくダンスに興じている。

貴族たち

なんと美しき日であろう

われらが故郷（こきよう）　ボヘミア

の光と風よ

清きドナウ　深き森よ

そしてなにより

永きにわたる安らかな日々よ

永遠（とわ）に　永遠（とわ）に

ハインリヒ

なんと喜ばしい日であろう

わが故郷（こきよう）　ボヘミアの地

への帰還

懐かしき友　家族との再会

そしてなにより

美しき妻　光子を

披露する事が出来て

光子

なんて嬉しい日なのでしよう  
あなたの故郷（こきよう）  
美しいボヘミアの地を踏めて  
あなたの友 家族にお会いできて  
そしてなにより  
皆様に祝福ただけて

貴族たち

なんと美しき日であろう  
われらが故郷（こきよう） ボヘミア  
の光と風よ  
清きドナウ 深き森よ  
そしてなにより  
永きにわたる安らかな日々よ  
永遠（とわ）に 永遠（とわ）に

伯爵弟

なんと麗しき人なのでしよう  
わが兄 ハインリヒ わが姉 光子よ  
黒き髪 黒き瞳よ  
まさに東洋の神秘  
二人に神の祝福を

永遠（とわ）に 永遠（とわ）に

伯爵弟

長旅の疲れもあるでしょう

伯爵弟妻

あとは我々、夫婦に任せて

お二人は先にお休みください

◆光子、ハインリヒは広間より退出。パーティーは続く。

貴族たち

なんと美しき日であろう

われらが故郷 ボヘミアの光と風よ

清きドナウ 深き森よ

そしてなにより

永きにわたる安らかな日々よ

永遠に 永遠に

伯爵弟

なんと忌まわしき日であろう

わが兄 ハインリヒの帰国

黒き髪 黒き瞳の東洋の魔女

そしてなにより  
だれも祝福してなどおらぬ

伯爵弟・妻

なるものか なるものか  
忌まわしき夫婦に

この家を継がせてなるものか

貴族たち

なんと汚らわしき日であろう

われらが故郷（こきょう） ボヘミア  
の光と風よ

清きドナウ 深き森は汚（けが）され  
た

黒き髪 黒き瞳の魔女により

なんと忌まわしき日であろう

われらが故郷（こきょう） ボヘミア  
の光と風よ

清きドナウ 深き森は汚（けが）され  
た

◆  
暗転

黒き髪  
黒き瞳の魔女により

【第二場】「兄弟の確執」

登場人物

光子

ハインリヒ

伯爵弟

伯爵弟妻

舞台

城内ハインリヒの書斎

◆書齋にて黙々と書き物をしているハインリヒ。  
そこへ光子がお茶を持ち寄る。

光子

あなた 何をお書きになっているの？

ハインリヒ

ミツコ

時代が間もなく変わろうとしている  
転換期は近い

わが願いは平和  
人々が争うことなく  
安らかに 穏やかに  
暮らすことを夢見てる

そのための術（すべ）を  
標（しるべ）を  
記しているのだ

ハインリヒ

世界中を旅した私が見てきたものは

光子

神は違えど



ハインリヒ

姿は違えど

光子

泣き、笑い、歌い、踊る人々の姿

ハインリヒ

わたしは思う いつの日か

肌の色、髪の色、瞳の色が異なれど  
人々が仲良く暮らす 未来の姿を

光子

我らのように

ハインリヒ

我らのように

◆突如、書齋に闖入し、二人の間に割って入ってくる伯爵弟

伯爵弟

兄さん 一体どういうことですか!?

帰国早々、領民の税を引き下げるとは  
民の暮らしは楽にはなっても

このままでは我らの暮らしが  
成り立ちません!

ハインリヒ

弟よ

時代は刻々と変わっている

私は世界中をめぐり それを見てきた  
変革の時は近い

我ら貴族の時代はまもなく終わる

時代は変わる

世界は変わる

我らも変わるのだ

伯爵弟

兄よ

あなたは旅から戻られ

おかしくなってしまった

それとも東洋の魔女に呪いをかけられ  
気がふれてしまったのか

兄よ

あなたにこの家を任すことはできない

兄よ

あなたをこの家の当主と  
認めるわけにはいかない

兄よ

この地を治めるのは

この私をおいて他にいない

兄よ！ 兄よ！ 兄よ！ 兄よ！

（銃ヲ取り出シ、照準ヲハインリヒニ定メル）

ハインリヒ 弟よ、一体何の真似だ！

伯爵弟 クーデンホーフ家を救うには

この方法しかないのです

ハインリヒ バカな真似はよせ！

伯爵弟 兄上よ、貴方は東洋の魔女の呪いによ

り、気がふれてしまわれたのだ

光子

待ちなさい！

撃つのなら魔女と呼ぶ私を撃ちなさい

私も伯爵も願うのは平和

兄弟が争うことは望みません

(伯爵弟ノ前ニ跪キ、祈リヲ捧ゲル様ニ頭を垂レル)

伯爵弟

よかろう ではまず

憎き魔女から成敗してやろう

(光子ノ方ヲ向き、光子ニ狙ヒヲ定メ乍ラ近ヅイテ行ク)

◆跪く光子の額に伯爵弟が銃口を当てたその時、光子の懐中より家伝の守り刀がひらめき、伯爵弟の銃を薙ぎ払う、「エイ！」 手首を押さえ、うずくまる伯爵弟。

光子

お父さま お母さま

ありがとうございます

家の宝 お父様とお母様のこの刀が

私と私の愛する人を守ってくれました  
わたしたちの未来を  
これからもお守りください

ハインリヒ 弟よ

私も光子もこれ以上の争いは  
もう望まぬ  
そうそうに妻を連れ  
この城から去るがよい

「涙あふれぬ」

憎しみは何も生まぬ  
ただ、涙あふれぬ  
時は流れぬ  
人は変わりて・・・

人生は涙の谷  
されば涙の谷を過ぐるとき  
そこを泉の湧くとせん

心変わりて

人は去りぬ

ただ、涙あふれぬ

時は流れぬ

されど夢は終わりぬ

人生は涙の谷

されば涙の谷を過ぐるとき

そこを泉の湧くとせん

心変わりて

人は去りぬ

ただ、涙あふれぬ

時は流れぬ

されど夢は終わりぬ

【第三場】十年後「家族の誓い」

登場人物

光子

ハインリヒ

子供たち

舞台

ロンペスブルク城庭先

◆大きな真鯉と緋鯉、そしていくつかの子鯉の鯉のぼりが城の屋上に掲げられている。それを見上げ、駆け回る子供たちと庭先でくつろぐ光子とハインリヒ。

子供たち

お母さま

あの大きな鯉の形をした旗はなあに？

光子

あれはお母さんのふるさとの旗

鯉のぼり

子供たちの成長と健康を祈って掲げる  
日本（にほん）の習わしよ

子供たち

わあ じゃあの一番大きな黒い鯉は

お父さんだね

子供たち

赤い鯉はお母さん

子供たち

小さな鯉は私たち！

ハインリヒ

子供らよ



お前たちが生まれる前

父は世界中を旅し

日本（にほん）という遙か東の国で

お母さんと出合い

そしてお前たちが生まれた

世界中を巡り知ったことは

どの地の人も

泣き、笑い、愛し、そして慈しむ

変わらぬ人の姿

私たちが夫婦がそうであった様に

いつか国の壁 言葉の壁

文化の壁を越え

世界中の人々が平和に暮らす

その世界を お前たちの力で

作り出して欲しい

この国を流れる青きドナウのように  
いつか街を超え 国境を越え

人々の壁を越え

ヨーロッパ中に新しいつながりを

国境を越え

ドナウを駆け巡るこの鯉のよう

ヨーロッパ中を駆け巡り

新しいつながりを

新しい時代 新しい世界を

お前たちの力で

作り出して欲しい

それが父の願い

光子

私の願い

子供たち

僕らの願い！

「五月の空に」

風薫る 光遍く 皐月の空に  
ぼくらわたしら歌うのさ  
緑の森に守られて  
大きな愛につつまれて

風薫る 光遍く 皐月の空に  
ぼくらわたしら歌うのさ  
緑の森を慈しみ  
大きな愛をはぐくんで

風薫る 光遍く 皐月の空に  
ぼくらわたしら歌うのさ  
風薫る 光遍く 皐月の空に  
ぼくらわたしら歌うのさ

【第四場】「ハインリヒ伯爵の無念」

登場人物

ハインリヒ

舞台

ロンスペルク城内

ハインリヒ書斎

ハインリヒ

すこやかに子に育った子供らよ

永遠（えいえん）の愛を誓った美しき妻  
よ

私にはわかる

残された命は長くはない

私の命の炎はまもなく

燃え尽きようとしている・・・

妻と子に恵まれた

何一つ不自由のない人生

世界中を旅してまわり

広めた見聞

家族と神より与えられし

愛情と恩寵

人生は彩（いろど）られた影の上

死を恐れてはいないが

別れし者への

別離の情は耐え難い

神よ 残されしものに 祝福を

子供らよ 新しき時代に 新しき世界を

光子よ 永遠(えいえん)の愛に 輝く未来を

## 「彩られし影」

人生は彩(いろど)られし影の上

涙のパンを食まなくば

人生の味はわからない

享樂は人を卑しくし

涙は人を強くする

神よ 残されしものに 祝福を

子供らよ 新しき時代に 新しき世界を

光子よ 永遠(えいえん)の愛に 輝く未来を

人生は彩(いろど)られし影の上

肚(はら)より出でし言葉なく

人を動かすことならじ

魂の中の英雄を

決して放棄すべからず

神よ 残されしものに 祝福を

子供らよ 新しき時代に 新しき世界を

光子よ 永遠(えいえん)の愛に 輝く未来を

人生は彩(いろど)られし影の上

空の飛び方を得(う)るならば

歩き 走り 跳ねるのだ

闘う者に明日(あす)がある

神よ 残されしものに 祝福を

子供らよ 新しき時代に 新しき世界を

光子よ 永遠(えいえん)の愛に 輝く未来を

人生は彩(いろど)られし影の上

樹々にとり大切なものは何なのか

誰もが果実というであろう

しかし本当は種なのだ

神よ 残されしものに 祝福を

子供らよ 新しき時代に 新しき世界を

光子よ 永遠(えいえん)の愛に 輝く未来を



第三幕 ウイーン・光子の決意

【第一場】「失意の光子」

登場人物 光子

子供たち

伯爵弟

伯爵弟妻

貴族たち

舞台 ウイーン マキシング通り邸宅前

光子

子供らよ お父様亡き今  
新しき生活を

このウィーンの地にて始めましょう

お父様の意思を継ぎ

クーデンホーフの名に恥じぬよう

子供たち

お母さま お父様亡き今

僕たちは

気高く強く生きてきます

お父様の意思を継ぎ

クーデンホーフの名に恥じぬよう

光子

さあ、今日はもう休みましょう

こどもたち

明日へのよき力を蓄えましょう

おやすみなさい

子供たち

おやすみなさい

お母さま

◆子供たちは去り、舞台は光子ひとりに

「寄る辺なき夜に」

ひとり寝(ぬ)る

ぬばたまの夜(よ)に泣き濡れて

君が姿を懐かしみ

よるべなき身をおもゆれば

珠(たま)のを断ちて

きみがあと

追ひて会はむと恋ひすれど

きみぞ面影(おもかげ)遺(のこ)さしむ

吾子を思ひて 想ひとどまん

ひとり寝(ぬ)る

ぬばたまの夜(よ)に泣き濡れて

ぬばたまの夜(よ)に泣き濡れて

◆伯爵弟・弟妻・親族の貴族たちが、突如、光子の前に、雪崩込んで来る。

伯爵弟

なるものか なるものか

忌まわしき魔女に

この家を継がせてなるものか

やらせはせん やらせはせん

忌まわしき魔女に

クーデンホーフをやるものか

貴族たち

なるものか なるものか

忌まわしき魔女に

この家を継がせてなるものか

やらせはせん やらせはせん

忌まわしき魔女に

クーデンホーフをやるものか

伯爵弟  
私こそ家を継ぐには相応しい

私の他に誰もいない

伯爵弟妻  
貴方こそ家を継ぐには相応しい

貴方の他に誰もいない

伯爵弟  
黒き魔女

わが兄は騙せても

この私は騙されぬ

貴族たち  
わが一族は騙されぬ

光子  
( 騙してなんていない! )

伯爵弟  
忌まわしき魔女

東洋の魔女

わが言葉を解すなば

この地より早々に立ち去るがよい

貴族たち  
立ち去るがよい

光子 ( 帰る家なんていない！ )

伯爵弟 兄に呪いをかけ

殺したのはお前であろう

貴族たち 殺したのはお前であろう

光子 ( 殺してなんていない！ )

伯爵弟 殺したのは光子

貴族たち 殺したのは光子

光子 ( 殺してなんていない！ )

伯爵弟 光子 お前が殺したのだ

貴族たち 光子 お前が殺したのだ

伯爵弟 光子 お前が呪ったのだ

貴族たち                    お前が呪ったのだ

伯爵弟                    殺したのだ

貴族たち                    殺したのだ

光子                    ああ    あなたどうか助けて！

神様、どうか救いの光を！

◆光子が悲鳴をあげたその時、一条の光が光子を差し照らす。皇帝の使者の到来を告げる喇叭(ラッパ)の音が高らかに響き渡った所で、暗転。



【第二場】「光子の決意」

登場人物

光子

子供たち

街の人々

皇帝の使者

伯爵弟

貴族たち

舞台

ウィーン・街の広場

◆皇帝の使者の到来を告げる音が街角に響き渡り、邸宅前には町中の人々が集まってくる。子どもたちも家の中からか顔を出す。興奮していた伯爵弟や親族たちも今は、使者の訪れに固唾を飲み、見守っている。

使者

これより皇帝陛下の親書を読み上げる

ミツコ・クーデンホーフ

並びにフリードリヒ・クーデンホーフ

前が出るがよい

伯爵弟・光子

(共ニ使者ノ前ニ進ミ出ル)

使者

それでは読み上げる

謹んで聞くが良い

ハインリヒ・クーデンホーフ亡き後の所領とその相続について此処に記す。

伯爵領及びその領地の運営に関しては

フリードリヒ・クーデンホーフ及び親族に任せ、

◆伯爵弟、親族の貴族たちより歓声とどよめきが響く

使者

クーデンホーフ・ミツコは子息・子女の教育に専念すること。

◆子供たち、町の人々からは落胆とため息が漏れる

使者

ただし、かねてより、余の忠実な臣下ハインリツヒから言付かっていた通りクーデンホーフ家の所領及びその財産すべては光子とその七人の子供らのもとする。

皇帝 フランツ・ヨーゼフ・カール・フォン・ハプスブルク

子供たち

うわああああ

街の人々

おおおおおお

使者

親族一同、これからは心して光子を支えるようにと皇帝陛下のお言葉である

また、ここに生前の伯爵より皇帝陛下にあてた手紙がある

光子よ 受け取り給え

光子

（手紙ヲ受け取り、子供たちノ前ニ進ミ出ル）

あなた、ありがとうございます

神よ、これからも私たちをお守りくだ

さい

（手紙ヲ手ニシ、伯爵弟ノ方へ歩ミ寄ツテユク）

この手紙にある通り、争いはもう終わりにしましょう

(伯爵弟、親族ヲ、ジロリト睨ミツケ)

ただ、もし闘うというのなら

いくらでもお付き合いますからね

(微笑ミ乍ラ、懷中ヨリ取り出シタ短刀ヲ、伯爵弟

ニ突キ付ケル)

◆伯爵弟、親族の貴族たち光子の迫力に気押され、蜘蛛の子散らすが如く逃走する。子供たち、町の人々の歓声がこだまし、その潰走つぷりに皆が大笑い。

使者

此処にもう一通、伯爵より子供たちにあてた手紙も預かっている。今より読み上げるので、心して聞くがよい。

手紙

「子供たちよ。天上の星々は互いに連なり、星座を作る。ならば国々も争いの果てに、一つになるのではなく、それぞれが星のように連なり、輝きを増していくことは出来ないか。そんな未来を私は心に描いていた。」

子供たちよ。母さんの生まれた東洋の地では滝を昇りきった鯉は龍となり、天を翔け、虹を越えてゆくという。お前たちの志もいつかその龍の如く、空を駆け、虹を超え、あの天上の星々まで届かんことを願うばかりだ。私の為し得なかった、各々の国同士が夜空の星々の如く、連なる未来を力を合わせて築いて欲しい。」

光子

子供らよ お父様の意思を継ぎ

これからも強く生きていきましょう

クーデンホーフの名に恥じぬよう

子供たち

クーデンホーフの名に恥じぬよう

◆子供たちと街の人々が、クーデンホーフ家の紋章旗と鯉のぼりを町中にはためかせ、練り歩く。大きな真鯉、緋鯉、そして子鯉が高くひらめき、光子たち家族の明るい未来を予兆する。

街の人々

(光子ト子供たちヲ囲ミ歌イ始メル)

◆光子、子供たちもその輪に加わり、徐々に歌い始める。

「虹よ 星よ」

虹の向こうに

何が在りしや

星の彼方に

何ぞ在りしや

誰も知らなじ

されど我ら

神の恩寵

背に受けて

逝きしますらをの

涙を継ぎて

虹の向こうを

目指し行かん

星の彼方を  
超えて行かん

その名を水に書きし者  
されど我らは忘るまじ

その志を火にくべ逝きし者  
されば我らが語り継がん

海の向こうに  
何が在りしや

空の彼方に  
何ぞ在りしや

誰も語らじ

されど我ら

神の恩寵

背に受けて

逝きしますらをの

涙を継ぎて



海の向こうを  
目指し行かん  
空の彼方を  
超えて行かん

町の人々                    クーデンホーフの涙と共に

子供たち                    我らが父の思いと共に

光子                        わが夫の愛と共に

◆前段の台詞を最期に町の人々、子供たちは舞台より去り、光子一人が残り、自己の半生と夫への愛と誓いを歌い出す。  
照明が光子だけに弱く当てられた所より、歌は始まり、曲の進行と共に徐々に光の明度を増してゆく。曲の最高潮に達すると同時に、照明も最大限で光子を照らし、そのまま、歌の終わりと共に幕を閉じる。

「光と共に」

ひさかたの

ひかりまぶしき

なつのひに

わたしはうまれ

あいされそだつ

みずほのだいち

ひかりとともに

ひむがしの

とおくはろけき

そこくにて

わたしはであい

そしてあいした

あなたのことを

あなたのすべてを

あらたまの

としはふりゆき

いくせいそう

あなたのくにで

あなたとくらし

ともにちかひし

かわらぬあいを

うつせみの

いのちはかなく

きみさりて

きみがかんばせ

のこせしむ

おさなごだきて

なみだにぬれぬ

あかねさす

きみがこころを

わすれなじ

あなたのゆめよ

せかいへひびけ

へいわとあいを

ひかりとともに

ちはやふる

かみのみこころ

せにうけて

あなたのおもひ

かたりつぐがね

ひかりとともに

ひかりとともに

【終幕】

【注】

ミツコの和の心を表現するために、歌詞の一部に和歌がありますが、口語に変更することも可能です。

※一部、万葉集、古事記からの引用あり。

新しき年の初めの初春の今日降る雪のいやしけ吉事 【万葉集・大伴家持】

天地の分かれし時ゆ神さびて高く貴き駿河なるく 【万葉集・山部赤人】

大和は国のまほろばたたなづく青垣山ごもれる大和し美し 【古事記・倭建命】

※ハインリヒの歌詞では西洋の精神を具現化するため、ハインリヒの愛したゲーテ、ニーチェ、聖書の言葉を一部引用。

歌を通じて和の心と洋の精神の融合を試みました。

なお、伯爵弟の名前にはハインリッヒ伯の夭逝した弟フリードリヒの名を使用。

明治の世も令和の世も変わらぬ、やまとごころ、即ち、万葉の想いは時代も場所も超えて人々の心に届くと信じています。また引用した和歌の作者である大伴家持、そして、日本武尊の流離ひの心は孤高のボヘミアン、ハインリヒ・グーテンホーフの精神にも相通じる部分を感じてやみませんでした。

願わくばハインリヒ、そして光子の魂に届かんことを。

また、亡き師小池一夫の御霊にこの作品を捧げます。